青山 AOYAMA

梅窓院通信

No.36 2008/03/01 春彼岸号

平成19年春、梅窓院の桜

住職挨拶

梅窓院第二十五世
中島 真成

地球温暖化で天候不順が続き、季節感が少しずつ無くなってきているように思えます。四季折々の景色や自然の恵みに生活を彩られてきた私たち日本人にとって悲しいことです。

今号から当院の仏教講座でおなじみの勝崎裕彦先生に法話を連載いただきます。俳句に造詣の深い先生ですので、紙面から日本ならではの季節感が溢れてくることでしょう。

もうすぐ春彼岸を迎えます。寒さも和らぐこの彼岸に、どうぞご家族みなさんでお参りにお越し下さい。ご先祖あっての私たち、ということを老いも若きも、そして子供たちも、その心に刻むことが大切です。お彼岸のお墓参りは家族でそのことを確認、共有する絶好の機会です。

梅窓院ではお彼岸にあわせて、法要の前後に落語とライブを楽しめるように企画しています。ライブは今回で三回目になります。若い人たちのバンドが彼らなりにお寺にあった曲を演奏してくれています。お檀家さんの多くはお歳を重ねた方ですので、演歌や童謡の方がお好きだとは思いますが、たまには若い人たちの曲を聴くのもいいものです。法要後にお誘い合わせて、あるいはお孫さんやお子さんたちと一緒に祖師堂にお越し下さい。お飲物もありますし出入り自由ですので、お気軽にどうぞ。

今度の団体参拝は群馬県太田市の大光院を訪れます。前号から三回にわたって藁谷副住職に書いていただいている関東十八檀林の一つであり、子育て呑龍さまで有名な北関東を代表する名刹です。どうぞご参加下さい。

法話

仏教歳時風物詩（1）

彼岸の春風

新宿区　香蓮寺住職　勝崎 裕彦 上人

春の訪れを告げる三月は、季節的には冬季から春季へと移り変わる節目の時期である。北から南へと長い日本列島であるから、もとより全国一律に捉えることはできないが、春を迎える季節・気候の推移は日本人の生活になごやかな明るい便りとして受けとめられてきたのである。

三月のお天気暦を見ると、寒暖の交互交替をいう、「三寒四温」の現象、「春の嵐」の列風や「残雪」のどか雪・名ごり雪、また、「菜種梅雨」といわれる春霖のぐずつきと、少しずつ暖かくなる春の歩みも決して一様でない。そして桜の花を呼ぶやわらかい南風「桜まじ」が吹いて、桜前線の北上を心待ちにすることになる。ここに春彼岸、「暑さ寒さも彼岸まで」の謂ではないが、寒さも途絶えて、やがておだやかな春の季節の安定を見る。「彼岸西風」とは、彼岸時分に吹く西風で、この西風が吹き止むと、まさに春めいた暖かさに落ち着くといわれ、古来より、西方極楽浄土からの慈悲の西風とされてきたのである。

三月春分の日は昼夜二分、太陽が真東から昇り、真西に沈む。この日ばかりは日本列島の東西南北に一定で、その日を迎える風は全国に変わりはない。すなわち、春のお彼岸である。春分の日を「お中日」と称して前後七日間、仏教の重要な年中行事であるが、現今ではおぼんとともに日本人の精神文化、生活文化に深く根差した大切な習俗となっている。

俳諧歳時記では時候の項に「彼岸」、行事の項に「彼岸会」と二項目立てを採るのが普通である。時候欄に季語として定着しているのは、お彼岸がそれだけ一般化していることへの証左であろう。

さてお彼岸のお中日。太陽が真西に沈むその方角、西方十万億土の彼方に阿弥陀仏の極楽浄土の彼岸世界がある。『観無量寿経』に説かる日想観の教えに従って、沈み行く入り日に祈るはるかなる願いは、阿弥陀仏の大慈大悲を仰ぐ心を映している。

何迷う彼岸の入り日人だかり　（鬼貫）

山の端に宝珠のまるき彼岸かな　（青畝）

芭蕉時代に早くから俳諧の一つの境地を開いた上島鬼貫の句は、入り日に祈り念ずる凡夫衆生を写して率直である。虚子門の一方の雄である阿波野青畝は、十方世界をあまねく照らす阿弥陀仏の大光明を西山に沈む宝珠円光に見て取ったのである。

竹の芽も茜さしたる彼岸かな　（龍之介）

芥川龍之介は大正十一年、三十一歳の春頃から自分の書斎を「澄江堂」に改め、澄江子と名乗った。本句が収められた『澄江堂句集』は、自選遺句七十七句を集めて没後に刊行された。この句の詞書には「小閑を得たるうれしさに」とある。中七の「茜さしたる」とは、まさに夕日・西日を受けてのものであろう。茜色に映える小さな竹の芽をおだやかに見つめる遠い日の芥川龍之介に、春のお彼岸の心模様を偲ぶのである。

元来春風といえば、暖かくやわらかい軟風である。東風、こち風といわれるように春を告げる東風、北東風によって次第に寒気がゆるんで、彼岸西風の西方浄土の迎え風が吹く頃になると、おのずから春本番、桜花の満開も間近となるわけである。ここでは、一足早い花期を迎える彼岸桜に目をやりながら、お彼岸の春風を身と心に受けて、おだやかな平安とすこやかな生活をともどもに祈り願い合いたい。

三輪車彼岸桜の根本から　（片桐和子）

（大正大学教授）

第43回念仏と法話の会

2月7日（木）第43回念仏と法話の会が開催されました。

M・ファン・デン・フック ピアノリサイタル

12月1日（土）梅窓院祖師堂にて行われました。
たくさんの方々にご来場頂きました。

12・1・2月の行事報告

※次回が平成19年度最終回（全3回）で6月6日（木）、ご法話は山﨑上人です。

春彼岸法要

三月二十日（木）

彼岸寄席

入船亭扇辰　師匠ほか

午後1時～　1階 観音堂

入船亭扇辰　師匠
1964年 2月13日新潟の長岡生まれ。
1989年 九代目入船亭扇橋（せんきょう）に入門。前座名 扇たつ、1993年 二つ目昇進、扇辰に改名
2002年 真打昇進。出囃子「からかさ」。

入船亭扇辰　師匠

春風亭正太郎 さん
1981年8月23日東京生まれ。
2006年春風亭正朝に入門。

春彼岸会法要

午後2時～　2階 本堂

お彼岸ライブin青山

Pjeckae（ペチカ）／Acushla（アクーシュラ）他

開　場　午後2時半～　祖師堂
開　演　午後3時

恒例となりましたお彼岸ライブ。今年の春彼岸では4組のバンドが出演します。
（※別紙案内もご参照下さい。）

平成19年秋彼岸でのライブ

塔婆申込み方法
同封のはがきを使い**3月10日（月）必着**でお申込み下さい。塔婆回向料は**1本7000円**とさせて頂きます。

お支払方法
同封の振込用紙で**郵便局**にてお支払い頂くか、**当院受付**までお持ち下さい。（銀行でのお振込みは出来ません。）

お檀家様へお願い
3月17日～23日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせて頂きます。ご協力お願いします。

春彼岸に寄せて

「こんにちは」すれ違いに挨拶を交わしただけで、とても清々しい気分になった。そんな経験ありませんか。きっと明るく笑顔で挨拶を交わしたからでしょう。

ちょっとしたことで幸せな気分になる。そんなこと、他にもありますよね。困っているとさっと手を差し伸べてくれる。うれしいことです。ですが、とても怖いもので、なにかしてもらうことにはすぐに慣れてしまいます。この前は仕事を手伝ってくれたのに、この前は……と、数え上げたら限りがありません。してもらうのが当然になってしまうのですよね。では、逆に困っている人が目の前にいたらどうでしょう。自分には関係ない。もし力になれたとしても見返りを求めてしまう。悲しいことです。

自分の大切なものを人に分けてあげる。そのことをお布施といいますが、なんだか難しく聞こえてしまいますね。ですが、本当はもっと身近なところにあるのです。笑顔で挨拶をする。相手の立場に立って話を聞く。困っていれば手伝ってあげる。そんな些細なこともお布施の一つなのです。そこで、大切なことがあります。してあげるのではなく、させて頂くという気持ち「喜捨（きしゃ）」です。受けた恩は石に刻みますが、かけた情けは水に流しましょう。彼岸は特にその期間です。墓参とともに、そんな当たり前なことを気にしながら生活する期間にしたいものです。（法務）

特集

関東十八檀林

KANTOU JYUHACHI DANRIN

前号に引き続き本特集では関東十八檀林の学寮について藁谷副住職にお書きいただきました。浄土宗を支えるお坊さんの養成学校ですから、入るのにもいろいろ決まりがあったようですし、また規則もしっかりしています。ここで修行、勉学に励んだ者が名僧となっていったのです。

檀林の学寮制度とその規則

副住職　藁谷（わらがい）　真敬（しんきょう）

学寮について

往時の学寮は雨露を凌ぐ程度の質素なものと伝えられていますが、宝暦年間の大火事で増上寺が類焼し、学寮三十七軒が焼失した時の寮は「皆瓦葺一戸建」であったと言います。又、その佇まいは「大或小、境界を定め、門戸を分かち、主僧侶名を標札し、別に寮名を立てず」と言い、又その様式を寛永寺学寮の百軒長屋式、真言の智山豊山の学寮とも異なり、曹洞の則に準じていたと言われます。学寮は寄宿生活を通して僧侶としての修行と学問を学ぶ処であり、それを便ならしめるべく図書を充実し講堂等の設備も整えていました。その学舎の軒数も年代により増減があり、多い時は百五十軒（享保初期）少ない時は八十二軒（文化時代）と、約半数に近い軒数になった時もありましたが、入寮者の員数には変化はありませんでした。学寮の数の減少の理由は、失火炎上の為、幕府の財政難、寮主が人材登用ではなく法系相続になった為等と考えられています。さて、増上寺は大檀林でありましたので、入寮希望者も特に多かった様です。また、江戸檀林に希望者が殺到しましたので、幕府は貞享二年に新米の所化（新入生）の員数を規定し、増上寺七十名、伝通院五十名、霊巌寺・幡随院・霊山寺各三十名と制限しました。また、その入寮規定（「入寮掟」寛永九年）によると、十五歳以上の男子に限る、見目悪きなき者、障害者は不可。三部経が読める者、他宗他門の者は不可。と定め、入寮日を毎年正月十一日と定めています。さて、増上寺の学寮は三谷（南谷・北谷・山下谷）を更に二～四の谷に分かち九谷としました。これは、学寮を九品往生の理に擬えて九谷にしたと言われています。又、各寮には寮主（寮坊主の略・校長）を始め、各谷毎に谷長や老僧がおり、学問や生活全般の相談に乗っていました。

寮則と罰則

学寮の生活は寮則を遵守し規則正しい生活を要求されました。その寮則の基本となったものが、存貞が作った「壁書清規三十三条」（談義所壁書）であります。その内容を管見しますと、勤行番の順次を違たり、仏前に供える三具足を疎かにした者、着座後再三席を立つ者、安居中歌舞した者、掃除を怠った者等、以上、修行者らしからぬ行為を戒めたものでありますが、違反者は科料（罰金二十銭）に処されました。又、極刑として学寮を追放される行為は、大衆の面前で上座者に対して悪口を吐いた者、両安居中に他宿した者、落書きした者、小石をぶつけた者、辻法問をした者、対出家世俗に論争をした者等でありました。寮規は寮生育成上、必要に応じて規定されて来ましたが、又、それを遵すべき便法として、寮生五人一組とし、無責任我儘な行為を相互に誡め合い、逸脱しない工夫もなされました。そして僧侶の和合の精神を養う為、敬篤三宝（けいとくさんぽう）、敬上慈下（けいじょうじげ）の精神を培うことを旨に寮生活が行われていたのであります。

※前号注釈／円戒（6頁3段）＝法然上人が天台宗で修行中に受けた戒で、円頓戒という。浄土宗の僧侶はみなこれを受ける。

梅窓院団体参拝旅行

―群馬県 太田　大光院と四万温泉の旅―
五月二十四日（土）～二十五日（日）

今回の梅窓院団参は、子育て呑龍さまでも有名な、群馬県は太田市の大光院を参拝いたします。参拝の後は四万温泉「やまぐち館」にて一泊。翌日は伊香保周辺を観光いたします。ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、みなさんのご参加をお待ちしております。

参加費／三万円（お一人様）
定　員／三十名前後
定員になり次第締め切りとさせて頂きますので、どうぞお早めにお申込み下さい。（別紙案内もご参照下さい。）
※お問合わせ 青山文化村
TEL03―3404―8588

十八 檀林の寺々①（北関東九か寺）

茨城県 常福寺（瓜連）

創建〉延元年中（1336～39）
開山〉了実上人
特徴〉紫衣檀林　二十六夜尊

鎌倉光明寺に次ぐ名刹で常陸国の総本山として慶長7年（1602）に檀林となる。

第二世の了誉上人は浄土宗というより仏教界を代表する名僧で、その徳を讃えた報恩の大法要は、二十六夜尊といわれ、現在も行われている。

将軍徳川家と水戸徳川家と縁が深く、最盛期は末寺が百を超えた。

平成になってから本堂、客殿などが落慶し、平成18年には楼門と鐘楼が改築されるなど、伽藍が一新している。

茨城県 弘経寺（飯沼）

創建〉応永21年（1414）
開山〉嘆誉上人
特徴〉紫衣檀林　千姫ゆかりの寺

※千姫まつり
四月第二日曜日

室町時代には関東浄土宗の中心寺院として栄え、多くの学僧を世に送った有力寺院。戦国時代に戦火で焼失、徳川三代（家康・秀忠・家光）から帰依、厚遇された第十世照誉上人によって再興。特に家康公の孫にあたる千姫は上人に深く帰依し、弘経寺を菩提所と定め、多大な寄進をした。

千姫

千姫寄進の鐘楼・中門をはじめ天樹院殿御廟（千姫の墓所）や遺品、そしてゆかりの品々が往時の風格を現在に伝えている。

茨城県 弘経寺（結城）

創建〉文禄4年（1594）
開山〉檀誉上人（飯沼弘経寺第九世）
特徴〉俳聖・蕪村ゆかりの寺

徳川家康の次男、結城秀康が開基、飯沼弘経寺の第九世が開山。慶長7年（1602）常福寺とともに檀林となる。創建以来、一度の火災に遭うこともなく、堂宇、仏像、什物が現在に残されている。

日本の俳壇を代表する与謝蕪村が、寛保2年（1742）より十年間寄寓し、ここから遊歴している。

また同年の僧も多くいたことから蕪村は仏教的な機縁を結んだといわれ、句碑、襖絵、紙本などが多数残されている。

茨城県 大念寺（江戸崎）

創建〉天正18年（1590）
開山〉慶巌上人
特徴〉天海僧正、仲介の寺

江戸崎城主芦名盛重候の開基。開山の慶巌上人は天海僧正と親しく、存応上人を通じて徳川家康公、秀忠公への仲介役となった。天和1年（1615）に檀林になったとようだが、確証がとれるのは寛文2年（1671）になる。明治2年（1869）には勅願所となる。本尊阿弥陀如来は聖徳太子作と伝えられる。

群馬県 大光院（太田）

創建〉慶長18年（1613）
開山〉呑龍上人
特徴〉子育て呑龍さまの寺

団体参拝で行くお寺　今年五月

徳川家康公が先祖である新田義重候の追善のため、呑龍上人を開山として迎え建立、常紫衣の檀林となる。明治時代初頭の日野霊瑞貫主によって子育て呑龍さまの寺として有名になった。北関東でも有数の寺院で、毎年九月七日から九日の開山忌には多くの参拝者で賑わい、午前中に太田市の食べるものがなくなったこともあったほど。

群馬県 善導寺（館林）

創建〉和銅1年（708）
開山〉行基上人
特徴〉名僧開山の古刹

行基上人の結んだ一庵を建久4年（1193）、歌僧頓阿上人が草庵とし、建治2年（1276）、良暁上人が再建し、第二世となった。浄土宗の主流である白幡派の念仏道場として興隆したが十六世紀半ばに戦火で焼失、天正18年（1590）、榊原康政候の帰依を受け幡随意上人が再建、七堂伽藍が整備された。昭和59年、都市整備により現在地に。

埼玉県 勝願寺（鴻巣）

創建〉建長4年（1252）
開山〉良忠上人
特徴〉関東三大十夜寺のひとつ

伊奈家の墓

開山良忠上人のあとを受け、天正1年（1573）、清巌上人が再興する。結城の城郭の一部が移され七堂伽藍が整った。利根川の治水工事で活躍した伊奈家、舞鶴城主牧野家の歴代の墓がある。また浄土宗ならではの行事、十夜法要は、塔婆十夜といわれ関東三大十夜寺のひとつに数えられる。

埼玉県 浄国寺（岩槻）

創建〉天正15年（1587）
開山〉清巌上人
特徴〉戦国時代の書状の寺

阿部家の墓

勝願寺の清巌上人を招請して、岩槻城主の太田氏房候が開基となった。建立翌年の法談をきっかけに清巌上人の名声が広がり、参集する者が多くなり過ぎ、法度まで出している。元和1年（1615）には岩槻城主の阿部家の菩提寺となる。また太田氏房候、徳川家康公、阿部正次候などの書状が今も残され寺宝となっている。

埼玉県 蓮馨寺（川越）

創建〉永禄1年（1558）
開山〉存貞上人
特徴〉呑龍上人縁日の寺（毎月8日縁日）

昨年5月の団体参拝の様子

後北条の武将、大道寺政繁の母堂、蓮馨大師が開基、甥の感誉存貞上人が第一世。

存貞上人は後に増上寺にのぼり、檀林全体の諸規則を規定し、今日に続く浄土宗伝法を確立した。

当山から常随の弟子、存応も後に増上寺法主として徳川家康の信認を得、将軍菩提所となし、宗勢を拡振した。

大光院と同じく呑龍上人を祀り、祈願所として連日信者で賑わう。

※各寺院の住所等は『青山』35号をご参照下さい。

インタビュー

supporters of baisouin

梅窓院を囲む人々

チェリスト・檀家

さん

編集部（以下◆）**本日はお忙しい中お時間をいただきありがとうございます。また当院にてコンサートをお開きいただいていますこと、改めて御礼申し上げます。**

世界が舞台の私とはいえ、こちらのお墓には父と母が眠っていることもあり、私にとってはまさに格別の感慨を覚えるステージになるのです。

◆　　さんのコンサートには希望者が多くて、会場となる祖師堂の定員三百人に対し、倍以上の申し込みがあります。梅窓院の行事では郡上おどりと並ぶ人気です。

有難いことです。演奏家としてこんなに嬉しいことはありません。

◆さて、最初に　　さんの音楽との出会いからお話いただけますか。

特に出会いといった感覚はないのです。音楽の中に生まれ育ったので音楽が空気みたいなものでしたから（笑）。

◆　　さんのお父様は高名な作曲家、お母様がヴァイオリニストとお聞きしています。

父の代表作に「平城山（ならやま）」「スキー」「とんぼのめがね」などがありますが、学校の校歌も千五百曲ぐらい作っていて、いつか甲子園の高校野球で準決勝に進出した四校のうち、三校の校歌が父の曲だったことがあったぐらいです。

父は陽気で頑固、人を笑わせるのが好きな人でした。そして仕事の鬼でもありました。その父に育てられたおかげで、小学三年生、八歳の時にはオーケストラの総譜を書いていました。

◆オーケストラの総譜ですか、すごいレベルの高さなのですか。

そうですね、大学生レベルでしょうか。小学校六年の時の曲はNHKでテーマソングになりました。

戦中の学童疎開で音楽から遠ざかっていたこともあり、疎開から戻った時は夢中で作曲したものです。

◆音楽一家に育った　　さんですが、数ある楽器の中で、チェロを選んだ理由を教えていただけますか。

はじめ少年ピアニストとして活動していましたが、作曲をするには弦楽器を弾くことがとても役立ち、中でもチェロが特に好きでした。そしてある時レコードで聴いたパブロ・カザルスに、「こんなに美しい音楽があったのか」と感動し、チェリストの道を歩むことにしたのです。

氏とチェロ

留学時代のお話をされる　　氏

◆そのカザルス氏の弟子になることになったのですから、まさに運命の出会いですね。ですが、カザルス氏の弟子になることは、奇跡だと聞いたことがありますが。

そうですね、まさに奇跡でしたね（笑）。

私が弟子入りできたのは、著名な音楽家ピアティゴルスキーが来日した時に私の演奏を聴き絶賛し、巨匠カザルスへの推薦状を書いてくれたからです。その推薦状を受け取ったカザルスからいらっしゃいという返事を受け取った時の感動は今でも昨日のことのように覚えています。

◆何歳の時ですか。

十九歳です。

◆弟子入りにご両親はどうおっしゃりましたか。

それは両親とも夢のようだと大喜びでした。

◆お名前を聞いたことがあるぐらいなので……、どんな方なのですか、カザルスという方は?

「音楽の神様」と呼ばれる、スペイン生まれの二十世紀最高の音楽家で、指揮者、作曲家としても大活躍されました。チェロの近代奏法を確立し、世界の音楽家が彼のもとに集まる音楽祭が開かれたり、また平和活動の一環として、国連で演奏もされています。

ケネディ大統領との親交は有名で、またカザルス詣でといって、俳優のシュバリエ、歌手のベラフォンテ、女優のディートリッヒなどがカザルスを訪れています。

◆すごい方なのですね。その方に　　さんは約五年間師事され、行を共にされました。しかもカザルスさんが　　さんのために来日もされていると聞きました。

ええ、とても私を認めて下さって、「これ以上彼に教えることはない」「彼は完全な音楽家である」とまで言って下さり、更にニューヨークで「　　こそは我が後継者である」と宣言されたのです。大きな責任を感じました。

◆祖師堂での　　さんのコンサート希望者が千人近いのも当然なのですね。最後になりますが、梅窓院にお墓をとられたのは?

父が青山を散歩中に梅窓院に立ち寄った時に、世界三大ピアノメーカーのグランドピアノが置いてあって、それを見て、父はすっかり気に入ったようです。菩提寺をピアノで選んだなんて、こういうのを縁というのですかね。

◆まだお聞きしたいことばかりですが、ここで失礼します。お忙しい中、ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

青山散歩道

レストラン FOREST

くつろぎの隠れ家

森の静けさをイメージした清潔感あふれる店内。路地を入った所にありながら、ランチも予約が必要な程の人気店だ。

名店「和田門」東京店から独立したオーナーシェフが、フレンチテイストのお店を2001年にオープン。五島牛にこだわった肉料理には、男女問わず固定客の熱い支持を集めている。

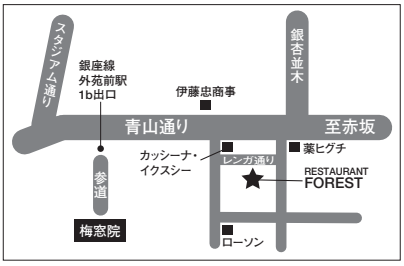
「生命力を感じる」という有機野菜は、静岡の契約農家からの直送だ。

ボリュームたっぷりの前菜も種類が豊富で、選ぶのも楽しい。

メインの五島牛はとても柔らかく、油も口どけが優しい。お腹いっぱい食べてもリーズナブルなところも魅力の一つ。

個室は4名・6名・8名様と3部屋あり、メインフロアは最大16名まで対応可能。

本格派でありながら肩が凝らない、つい足を運びたくなるお店だ。



定休日／月曜日
ランチ／11時半～14時（L.O）
ディナー／17時半～21時半（L.O）
住所／東京都港区南青山2-13-16 ※駐車場なし
TEL／03-5786-1531
FAX／03-5786-1533
HP／http://www.r-forest.com/

平日ランチ
フォレスト風ビーフカレー
1,680円

ランチでは、五島牛の入ったカレー、ハヤシライスのセットをお手頃な価格で楽しむことができる。

第三十回 食は命なり

食養研究家 武鈴子

生命力の強い「芹」

芹は、春の七草の一つ。日本原産の植物です。万葉集に詠まれているくらい、古くから親しまれてきました。新芽が出るときには、競り合うようにして伸びるので「せり」と呼ばれるようになった、といわれるほど生命力の強い植物です。芹はその香気が胃を健やかにして食欲をまし、血液の流れを正常にして、精気を養い、元気をつけて人を健康にする働きがあります。

栄養的には、粘膜や内臓を強化するカロテン、貧血を予防する葉酸や鉄分、高血圧を予防するカリウムなどを豊富に含んでいます。

相性のいいものを指して「鴨葱」といいますが、江戸時代にはむしろ、“鴨と芹”の相性が一般的だったようです。江戸の川柳に、

“鍋焼きの鴨と芹とは二世の縁”
“芹の上鴨昼寝してうなされる”

などと詠まれています。

鴨団子の煮物椀

材　料:鴨のすり身150g、鶏ひき肉50g、生姜ひとかけ、葱1本、芹5～6本、柚子少々、卵1個、白みそ大さじ1、薄口醤油少々、パン粉少々

作り方:①鴨と鶏肉のすり身をすり鉢に入れ、生姜のすりおろし、葱の小口切り、卵、白みそ、パン粉を加えてすり混ぜ、薄口醤油を加えて味を調える。
②昆布出汁に醤油とみりんを落として吸い汁（出汁14、薄口醤油1、みりん1）に仕立て、煮立った中に①の鴨すり身を適当な大きさに丸めながら入れて火を通す。
③②に適当に切った芹を加えて一煮立ちしたら、器に盛る。
④柚子の皮の細切りを天盛にする。

青山俳壇

選者『ウエップ俳句通信』編集長 大崎紀夫

◎特選
○裸木となりし菩提樹空あをし

◎佳作
○煮物するにほひ真近に大晦日
○冬波の寄する洞穴音重し
○健やかな証でありし賀状来る
○大中小と柚子を湯舟に浮かべけり
○場所と絵を選びて掛けて初暦
○能登の旅宿で出されし鰤大根
○駅伝をはるかに富士の二日かな
○初詣絵馬の鼠をかはゆしと
○手をつなぐ母子の背に冬夕焼

◎選者詠
○人日の新宿雨となりにけり　大崎紀夫

〈ワンポイントアドバイス〉
「うれしい」「悲しい」「楽しい」「さみしい」といった、思いをストレートに現わす言葉は、俳句の場合、極力避けた方がいいでしょう。こうした言葉では、その思いが素直に読者に伝わらないからで、昔から「物に託して思いは述べよ」といわれています。大声で泣きわめく人間に意外に同情が集まらず、肩でひそと泣く人に同情が集まるのと似ていますね。

投句募集

次回は「春の季語」でご自由にお詠み下さい。4月4日を締切り、6月発送の『施餓鬼号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062　港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

行事予定

春彼岸会法要

3月20日（木）
寄席　午後1時～　観音堂
法要　午後2時～　本堂
彼岸ライブin青山
　開場14時半～（祖師堂）
　開演15時～
※詳細は3面をご覧下さい。

増上寺 御忌大会（ぎょきだいえ）

4月2日（水）～7日（月）
増上寺において御忌法要（浄土宗の宗祖法然上人の忌日法要）が盛大に執り行われます。3日の御忌詠唱奉納大会では、梅窓院詠唱会の皆さまが参加致します。
皆様も是非参詣され、御忌法要に際して法然上人をしのび、ご恩徳に感謝いたしましょう。

はなまつり

4月5日（土）～ 8日（火）
寺院棟二階　本堂
お釈迦様の誕生をお祝いする「はなまつり」。花御堂は寺院棟二階の本堂エントランスに、また休憩所に甘茶の用意もございます。皆様どうぞご参拝下さい。

団体参拝旅行

ー群馬 大光院と四万温泉の旅ー
5月24日（土）～25日（日）
※詳しくは5面と別紙チラシをご覧下さい。

第44回 念仏と法話の会

6月6日（金）
受付開始午後12時～ 観音堂
※詳しくは別紙チラシをご覧下さい。

梅窓院だより

消防訓練…梅窓院では昨年12月13日（木）に赤坂消防署の指導と監修のもとに消防訓練を行いました。

平成20年度 前期 仏教講座のご案内

梅窓院では4月より平成20年度前期仏教講座を開講します。講師は昨年度より引き続いて勝崎先生、新井先生、阿川先生、本林先生の4名の講師でお送りいたします。どうぞお気軽にご参加ください。

全講座▶午後6時～8時　受講料▶無料　場所▶観音堂

講師　勝崎 裕彦 先生（香蓮寺住職　大正大学教授）
講題　**仏・菩薩 ― その教えと信仰**

第一回　6月12日（木）　大黒天とその信仰
第二回　7月10日（木）　鬼子母神とその信仰
第三回　8月　7日（木）　十二天とその信仰

講師より　仏教の守護神・護法天は、仏教の長い歴史の流れにしたがって、さまざまな尊格を形成して広く信仰されてきた。「仏さま」という受けとめ方で、天部の諸尊について解説する2回目のシリーズである。

講師　新井 俊定 先生（天然寺住職　大正大学出版会主管）
講題　**浄土の教えとその流れ**

第一回　5月　8日（木）　浄土教の源流をさぐる
第二回　6月24日（火）　中国の浄土教 ―人物を中心に―
第三回　8月　1日（金）　日本の浄土教の展開

講師より　阿弥陀仏信仰(浄土教)は、インドに発生して、中国、日本へ伝えられた。その教えと歴史について平易に概略する。

講師　阿川 正貫 先生（浄土寺住職　大正大学講師）
講題　**仏教と中国の思想・宗教**

第一回　5月20日（火）　廬山の慧遠の「沙門不敬王者論」など
第二回　8月19日（火）　「三武一宗の法難」その1
第三回　9月17日（水）　「三武一宗の法難」その2

講師より　初期、中国にとって仏教は、外国・異文化圏から来た宗教でした。そのため、中国元来の宗教・思想との関係において、さまざまな摩擦が起こります。今回は議題に挙げた事例を中心に、あれこれとお話しいたします。

講師　本林 靖久 先生（真宗大谷派僧侶　大谷大学・佛教大学講師）
講題　**現代の墓と家族 ― 生死観のゆくえ ―**

第一回　5月16日（金）　家族変動と墓の変容
第二回　7月　4日（金）　墓制の変化と遺骨のゆくえ
第三回　9月　5日（金）　ゆらぐ墓と供養 ―死後観の変化―

講師より　現代の墓は、家族関係の変化と連動する形で過度的な段階を迎えている。墓や葬送の実態調査を通して、現代家族の内包する人間関係や宗教世界観を探ることにしたい。

発　　行／梅窓院
発 行 日／平成20年3月1日
発 行 人／中島 真成
編　　集／青山文化村
住　　所／〒107-0062
　東京都港区南青山2-26-38
電　　話／03-3404-8447
F　A　X／03-3404-8446
ホームページ／http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail／jodo@baisouin.or.jp
題　　字／中村康隆浄土門主
　総本山知恩院第八十六世門跡

編集後記

前号新年号で掲載致しました表紙の写真は、青山文化村で梅窓院の風景を四季折々撮りためて来たものの一枚です。
今号も、文化村で撮影した梅窓院の桜の花です。これからも、季節を感じられる写真を載せていけたらと思いますので、皆様楽しみにしていてください。
春彼岸号から、仏教講座でもおなじみの勝崎上人のご法話が新連載スタートとなります。どうぞ宜しくお願い致します。（智）